

“ 彭 ” の意味的連続性

多和田 峰子

0 . はじめに

同一の一漢字語でありながら、異なる意味を表したり、統語的に異なる振る舞いをする場合がある。従来、それぞれの統語的或いは辞書的な意味の違いや統語的振る舞いの違いを根拠として、それぞれに意味や統語的機能の記述が試みられてきた。

多和田 2000 では、動詞・結果補語・アスペクト助詞に分類される“ 狛 ”の用法について、実詞(動詞)の意味が虚詞(アスペクト助詞)においても生きており、それゆえ実詞的用法から虚詞的用法にわたって、意味的な連続性のあることを示した。そして、その意味的に連続性のあることを根拠として、統語的振る舞い上差異はあっても一漢字を一範疇としてみなすことが可能であることを論じた。この立場は記述文法にはなじまないが、語彙的言語である中国語の本質に迫る一つの方法である。一漢字が表す実詞的な意味が、虚詞的用法における統語的意味にも生きており、実詞的な意味と虚詞的用法が意味的に連続性をなしているともみなすことは有効であると考えからである。

本稿においては、“ 狛 ”と同様に実詞的用法・虚詞的用法をとともに表す一漢字を取り上げ、分析の有効性を提示する。“ 狛 ”とともに虚詞、すなわち機能語のアスペクト助詞とされているものに“ 阻 ”と“ 彭 ”がある。本稿においては特に“ 彭 ”を取り上げ、その異なる用法(動詞・結果補語・アスペクト助詞)の意味的な連続性を考察し、“ 狛 ”と同様に一漢字を単位としてみなすことが可能であることを論じる。

1 . “ 彭 ” の分類

従来“ 彭 ”は統語的機能の上から、以下のように分類されてきた。

- イ . 動詞(述語基) / zh u ʔ / または / zh ʔ o /
- ロ . 結果補語(述語基後置成分) / zh ʔ o /

八．アスペクト助詞(述語基後置成分) / zhe /

1.1. 動詞の“彭 / zh u ㄗ / ”と“彭 / zh ㄗ ㄠ / ”

“彭 / zh u ㄗ / ”

“彭 / zh ㄗ ㄠ / ”

(1) 彭卮

(4) 彭諮阻！

(2) 彭凜

(5) 宸押否叟彭繁。

(3) 彭返

(6) 彭噌

“彭”一漢字の原義、すなわち実詞の意味は「つける」や「つく」、「付着する」を挙げることができる。“彭”と共に起する賓語が表現例(1)のように衣服類である場合には「身につける」の意となり、表現例(4)のように火である場合には「火がつく」すなわち「火事だ」の意となる。表現例(2)、(3)は抽象的な意味で「つける」ことが可能な場合である。表現例(5)は「(病気が)人に付着する」すなわち「(病気が)人にうつる」の意である。また、表現例(6)のように“噌”(涼、冷たさ)と共に起する場合には「冷たさが身に付着する」すなわち「風邪を引く」の意となる。ふたつのコトやモノが意味的に「つける」、「つく」、「付着する」になじむコトガラであれば“彭”を用いることができる。このように「つける」、「つく」、「付着する」という作用は個々の意味にいくらかでも細分が可能であるが、いずれの用法も「つける」、「つく」、「付着する」という実詞の意味、すなわち“彭”一漢字の原義に帰納される。

1.2. 結果補語の“彭 / zh ㄗ ㄠ / ”

(7) 孀彭阻。(さがして見つかった。)

(8) 誼彭匪倅並秤。(仕事が見つかった。)

以上は大略「動作行為の目的を達成、成就する」の意を表すとされているものであるが、この他「(十分に、極度に)～する」の意を表すとされている表現例(9)、(10)がある。

(9) 鋒彭(寝つく)

(10) 拙彭阻。(疲れ果てた)

(9)、(10)は『旗査囂伊為簡』で「自動詞や形容詞の後にあって、結果や影響が生じることを表す。」とされている表現例に該当する。

さらに、「～の甲斐がある」「首尾よく～する」の意味を表すものとして、(11)～(13)のような表現例が挙げられることもある。

(11) 短_{ㄅㄞ}欺寔圖姥彭阻。(意外にも準備の甲斐があった。)

(12) 低辛栖彭阻,厘断胡哉貧焼。(君はいいところへ来た。ぼくらは今飲みはじめたところだ。)

(13) 短𪗇欺書爺佩偏宸担寄鯛阻,恍爺議齒糞壓沢彭阻。(今日こんなに相場が下がるとは思いがけなかった。昨日の品物は全くうまく売った。)

抽象的な意味での「付着」や物体ではないモノとの「付着」を表す表現例は、動詞の用法においても見られたが、以上の表現例(7)~(13)に共通するのは「述語基の動作・行為の結果として、その動作・行為の対象物或いはその動作・行為で意図されることに付着する」という意味概念である。この意味概念が統語的意味(文法的意味)として具現化し、「(目的の)達成」を表している。結果補語の“彭 / zhタo /”が述語基(動詞或いは形容詞)に補足説明を加えるその意味は動詞と同じく、「つける」,「つく」,「付着する」という“彭”一漢字の原義に帰納することができる。

1.2.1. 結果補語の意味的分類

結果補語の“彭 / zhタo /”が表す統語的意味は、実詞的意味を意味上共通のベースとするが、そこから具現化される統語的意味(「達成」)は一様ではない。以下、表現例(7)~(13)が表す統語的意味をさらに検討する。

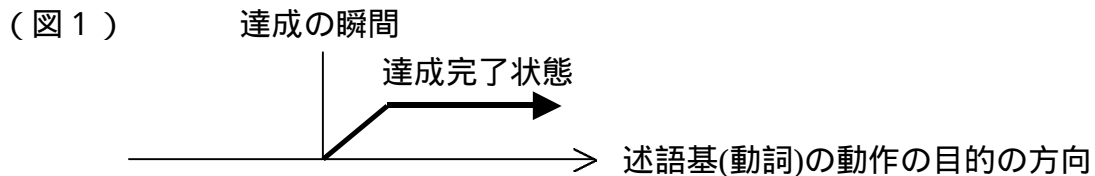
表現例(11)~(13)の表す統語的意味は、動作が達成されたことを表してはいるが、述語基に補足される意味は「達成」そのものというよりはむしろ、“寔”、“辛”、“糞壓”が共起していることから明らかなように、達成に対する話し手の評価(「甲斐がある」,「首尾よく」)を表すモダリティ的要素が付加されている。

また、表現例(9)、(10)の表す統語的意味は、表現例(7)、(8)の表す「達成」と比べて同一であるとはいえない。(9)、(10)のような表現は、達成の程度(「充分に」,「極度に」)或いは何らかの結果や影響が生じることに言及しており、他の表現とは区別されている。

本稿は、表現例(7)、(8)と表現例(9)、(10)が表す統語的意味について、その相違は共起する述語基の動詞の相違であるとの立場をとる。いずれの用法も意味上、“彭”一漢字の原義に帰納されることを前提とし、原義に基づいて統語的意味がいかにより具現化されるのか、以下に考察する。

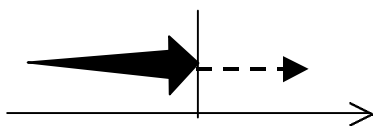
荒川 1981 は、行為と結果からなる中国語の動詞には、その意味範囲として行為のみに重点を置き、結果に重点を置いていないものが多いと指摘している。

それゆえ中国語においては、動詞が単独では結果を含意しない場合、結果を示すために動詞の意味を補足説明する補語という統語的範疇が存在するということができる。＜述語基(動詞)＋結果補語＞という統語形式は、＜行為＋結果＞という意味構造を成している。表現例(7)、(8)のような動詞に“彭 / zhタo /”がつく場合、“彭 / zhタo /”は動詞の表す動作・行為・変化・作用(以下、「動作」と簡称する)について「達成」という結果の意を補足説明している。一方、表現例(9)、(10)の動詞のように、状態を表していて、むしろ結果の意を補足する必要のない動詞に“彭 / zhタo /”がつく場合、達成を表すだけでなく、加えて達成の瞬間の後に当然引き続いて起こる「達成が完了した状態」にも言及する。(図1参照)

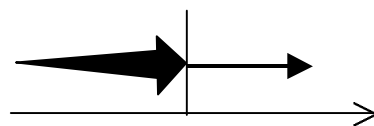


以下の図2は、結果補語“彭 / zhタo /”が述語基の動作を補足説明する範囲とその度合いについて、図1をもとに示している。話し手が言及する範囲の度合い(主従)は、太線(➡) 実線(→) 点線(---➡)の順に示されるものとする。

(図2) 表現例(7)、(8)の場合



表現例(9)、(10)の場合



例えば“偶彭阻”という表現(表現例(14)とする)も表現例(9)、(10)と同様に、状態を表している動詞“偶”が“彭 / zhタo /”と共起している。この場合“偶”という状態に至る(達成)瞬間だけではなく、“偶”が状態を表しているために、達成の後に当然引き続いて起こる「達成が完了した状態」にも言及し、“偶”であるという状態までも表すのである。

“彭 / zhタo /”が達成完了状態、すなわち動作が成就している状態にも言及することが可能であると仮定すると、語彙的に瞬間的ではない動作や状態を表す動詞と共起した場合、“彭 / zhタo /”がその動作の表す達成完了状態にまで

言及することは容易に想像がつく。

以上の点から、結果補語の“ 彭 / zhāo / ”が述語基の動詞に補足説明を加える「結果」の意とは、動作の達成の瞬間だけを表すのではなく、当然その後に引き続いて起こる達成完了状態、すなわち動作が成就している状態にも言及することが可能であるといえることができる。それゆえ、同じ「達成」という統語的意味であっても、共起する動詞の表す意味によって、表現例(7)、(8)と表現例(9)、(10)、(14)のような解釈の相違が生じるのである。

また、表現例(9)、(10)が達成完了状態にまで言及しているということは、主に動作の達成の瞬間に言及する表現例(7)、(8)と比較して、一定の時間的幅が存在することであり、それによって「(十分に、極度に)～する」という程度に言及した解釈が生ずるのである。

1.3. アスペクト助詞の“ 彭 / zhe / ”

“ 彭 / zhe / ”は従来、持続体のアスペクト助詞として「進行」や「結果状態の持続」(或いは「残留」)を表すとされてきた。この「進行」と「状態の持続」の違いについて、荒川 1985 や戴 1997 等の先行研究では“ 彭 / zhe / ”と共起する動詞の性質によるとしている。本稿は動詞を二つのタイプに大別する。「継続する動作、或いは繰り返す動作を表す動詞に後置されて、継続・進行を表す」とする表現例は(15)～(18)である。

(15) 磨珊試彭椿！

(17) 郭彭傾

(16) 低吉彭杏。

(18) 磨傍彭三椿。

また、「状態を維持したり、或いは変化そのものは一時的でその後静止の状態に移る動詞について、その状態の持続を表す」とする表現例は(19)～(22)である。

(19) 磨壓厠徨貧恫彭。

(21) 能貧航彭磨徂失鯨議嗟鯨。

(20) 壇蝕彭椿。

(22) 慢書爺刊彭匯周碕谷卅。

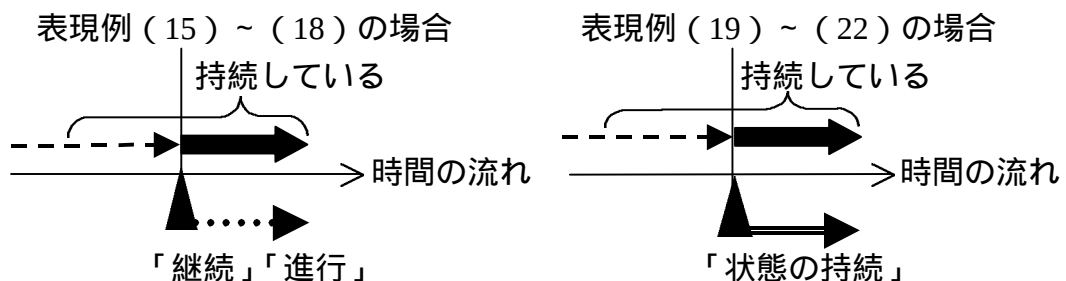
先の 1.2.1.において、結果補語“ 彭 / zhāo / ”は動作の達成の瞬間だけではなく、達成 + 達成完了状態という結果をも表すと述べた。本稿では、“ 彭 / zhe / ”の表す統語的意味が「進行」或いは「状態の持続」に関わらず、“ 彭 / zhe / ”は達成の瞬間よりもむしろこの達成完了状態そのものに言及した表現であると捉える立場から、以下考察を進めていく。

1.3.1. アスペクト助詞の意味的分類：

「進行」「状態の持続」と「方式」「手段」「条件」

“ 彭 / zhe / ” と共起する動詞の意味から、達成の瞬間が動作の開始点である場合、すなわち動作がその「達成完了状態」においてもなお続くものであれば、達成完了状態は「(動的な)進行状態」である。また、達成の瞬間が動作の瞬間でもある場合、すなわち動作の「達成」の瞬間後その結果が続くものであれば、達成の瞬間は動作の結果状態の開始点でもあり、達成完了状態は「結果状態」である。これらの「(動的な)進行状態」或いは「結果状態」は、時間の概念を導入して、達成の瞬間から達成完了状態への時間的経過として捉えた場合、両状態とも「持続している」と捉えることが可能である。すなわち「進行」「状態の持続」という統語的意味は、アスペクト助詞“ 彭 / zhe / ” が動作の達成の瞬間というよりは、むしろ達成を完了した状態そのものに言及するということによって具現化されるのである。(図3参照)

(図3)動作の目的の達成を三角形(▲)で示し、(動的な)進行状態は(…▶)を、結果状態は(⇒▶)を付け加えて示す。



装塚鯖等 1983 は、“ 彭 / zhe / ” の機能は状態を説明・描写することであり、動作の進行を叙述することではないと述べているが、このこともアスペクト助詞“ 彭 / zhe / ” が動作の達成を完了した状態そのものに言及した表現であることと符合する。表現例(19)~(22)の機能(文のタイプ)は「状態を維持したり、或いは変化そのものは一時的でその後静止の状態に移る」動詞と共起することから明らかなように「状態の持続」を表している。表現例(20)は、無生物・無情物がいわゆる主語の位置におかれ、文のトピックとなっており、表現例(21)はいわゆる存現文であり、いずれも状態を説明・描写している。また、表現例(15)~(18)の機能(文のタイプ)は「継続する動作、或いは繰り返す動作を表す」動詞と共起するが、その動作の継続・進行を「状態の持続」として表している

と捉えることも可能であり、そうであれば、やはり状態を説明・描写している
 ということができる。例えば、“下着雨。”といういわゆる無主語文を例にとれ
 ば「継続」、「進行」という統語的意味を表してはいるが、動作主の動作の進行
 を叙述するというよりは、進行を「状態の持続」として説明・描写している。

本稿においては、アスペクト助詞“ 彭 / zhe / ”は達成完了状態そのものに言及しており、一連のコトガラを時間的経過として捉えることによって、「持続」という統語的意味を具現化するに至った表現であると捉える。その統語的意味が「進行」であるか「状態の持続」であるかという相違は“ 彭 / zhe / ”の違いというよりは、むしろ“ 彭 / zhe / ”と共に起る動詞がその動作の達成完了状態において表す意味に起因すると考える。

次に、“彭 / zhe / ”が連動式動詞文において表す「方式」、「手段」、「条件」という統語的意味について考察する。『旗查囂伊為簡』では、以下の表現例(23)～(26)のような表現例の中には動作の方式を表すものがあると指摘している。

- (23) 彭傍 (25) 艷忌彭單徨郭傾！
(24) 恠彭肇 (26) 吃彭凜商心。

また、以下の表現例(27)、(28)は、 V_1 と V_2 の意味関係が手段と目的の関係にあるとしている。

- (27) 茄彭音刃鎮竈栖。 (28) 宸雷暇藻彭公慰慰郭。

さらに、「動詞のあとについて、条件を表す修飾成分となる」場合として以下の表現例(29)、(30)が挙げられることがある。

- (29) 箕**彭**載柿。(かついでみるとたいそう重い。)
- (30) 傍**彭**否叟, 恂**彭**佃。(言うはやすく、行なうは難し。)

連動式動詞文において、“彭”はこのように「方式」、「手段」、「条件」等の統語的意味を表すとされているが、このことは V_1 と V_2 の接続関係に起因している。それゆえ、連動式動詞文において“彭”が表す統語的意味は“V 彭”形式のみの統語的意味を基準に捉えられなければならない。すなわち、連動式動詞文は 1.3. で述べた「継続する動作、或いは繰り返す動作を表す動詞に後置されて、継続・進行を表す」や「状態を維持したり、或いは変化そのものは一時的でその後静止の状態に移る動詞について、その状態の持続を表す」という状態において、他の動作が行われることを表している。以下、“彭”の表す「持続」という統語的意味が連動式動詞文においてどのように表れているかについ

てみていく。

連動式動詞文“ V_1 彭 + V_2 ”は、話し手が V_1 と V_2 の関係を動作の行われる順に捉えた場合の表現形式であり、 V_1 と V_2 の意味上の接続関係は可能な限り任意である。すなわち、 V_1 という動作を達成し、その達成された状態が持続している状況において V_2 の動作が行われるという場合には「 V_1 シナガラ V_2 」、「 V_1 シテ V_2 」となり、“ V_1 彭”形式はいわゆる方式或いは手段を表す。また、 V_2 が V_1 の動作を達成した結果について叙述するという接続関係の場合には「 V_1 シテミルト V_2 」となり、“ V_1 彭”形式はいわゆる条件を表す。また、時間の概念を導入した場合は起始体アスペクトを表しているともいうことができる。

いずれにせよ、 V_1 と V_2 が動作の行われる順に並ぶ連動式動詞文においては、 V_1 は V_2 の前提・状況・場面などを表す成分である。1.3.1.において、装塚鯖等1983は“彭 / zhe /”の機能は状態を説明・描写するものであるとしていることを述べたが、これによれば“ V_1 彭”は V_2 に対して状況設定をする機能を果たしているといえることができる。

2. 意味的連続性を見出す根拠

一漢字が表す実詞的な意味は虚詞的用法においてどのように生きているのか。本稿においては、“彭”一漢字の原義・実詞的意味と統語的意味に連続性があること、また話し手が捉える時点の推移の上から、“彭”の用例を以下の表1にまとめる。

(表1)

音	統語的分類		統語の意味 (原義)	表現例
/ z h u ㄗ /	述語基	動詞	(つける) (つく) (付着する)	1) 彭世
/ z h ㄗ ㄠ /				2) 彭凜
	3) 彭返			
	4) 彭諮阻 !			
	5) 宸押否叟彭繁。			
述語基の後置成分	結果補語	達成	6) 彭噌	
			7) 孀彭阻。	
			8) 誼彭匯倅並秤。	
		11) 短 _ㄟ 欺寔圓姥彭阻。		
		12) 低辛栖彭阻,厘断胡哉貧 燒。		
13) 短 _ㄟ 欺書爺佩偏宸担寄鯛 阻,恍爺議齒糞壓沢彭阻。				
達成 +結果 [達成完了状態]	9) 鋒彭			
	10) 拙彭阻。			
	14) 偶彭阻。			
/ z h e /	結果補語的 動詞接尾辞	持続 [達成完了状態]	19) 磨壓厠徨貧恫彭。	
			20) 壇蝕彭椿。	
	アスペクト 助詞	21) 能貧航彭磨徯失鮫議嗟鮫。		
		22) 慢書爺刊彭匯周碕谷世。		
				15) 磨珊試彭椿 !
				16) 低吉彭杏。
				17) 郭彭傾
				18) 磨傍彭三椿。

以下、統語上の振る舞いの異なる“彭”が、意味的に連続性を有する虚化の過程を表しているものであることをさらに詳細に検討していく。

2.1. 動詞と結果補語の間の意味的な連続性

動詞(述語基)/zhu7/の表す原義・実詞的な意味は、物体同士の物理的な付着から抽象的な付着へと虚化していく。同様に原義・実詞的な意味を表す動詞(述語基)/zh7o/は、物体ではないモノにも言及し、その意味で虚化している。そして、結果補語(述語基後置成分)/zh7o/は、原義・実詞的な意味が虚化して、「達成」という統語的意味を表す。すなわち、動詞(述語基)/zhu7/、/zh7o/と結果補語(述語基後置成分)/zh7o/は、統語的に文中において現われる

位置が異なるものの、実詞的な意味に基づいているという点は同じであり、その虚化の度合いによって連続的に位置づけて捉えることが可能である。

2.2. 結果補語とアスペクト助詞の間の意味的な連続性

先の1.2.1.において述べたように、結果補語は“彭”の原義・実詞的な意味に基づいて「達成」という統語的意味を表すが、表現例(9)、(10)、(14)のように達成の瞬間そのものというよりはむしろ「達成完了状態」に言及した用法もみられる。本稿においては、この「達成完了状態」に言及した用法の結果補語“彭 / zhタo /”がアスペクト助詞“彭 / zhe /”との意味的連続性を示唆していると捉える。

「達成」するということはすなわち「達成完了状態の開始」でもある。達成の瞬間から達成完了状態への経過は時間の概念を導入すれば、持続する時間として捉えることも可能である。それゆえ、表現例(9)、(10)、(14)のような“彭 / zhタo /”の用法は、「達成完了状態」に至る時間的経過を捉えて「持続」という統語的意味を表す“彭 / zhe /”と共通する。以下、“彭 / zhタo /”と“彭 / zhe /”の意味的連続性についてさらに検討していく。

2.2.1. 「結果補語的動詞接尾辞」という統語的カテゴリー

木村 1981 は“彭 / zhe /”を「進行」と「持続」という二つの機能範疇に分類し、それぞれを「純粋なアスペクト辞」、「結果補語寄りの動詞付加成分」とした。——従来「持続」の“彭”としてアスペクト辞の一種に扱われてきたものは、実は純粋にアスペクト辞と呼べる進行相の“彭”や完了相の“阻”よりも実義性が強く、機能的にも結果補語に近く、従って構文論上アスペクト辞と結果補語の中間的な成分と見做すことが好ましい——と論じ、「結果補語的動詞接尾辞」という一つの文法的カテゴリーを提示した。この指摘によれば、結果補語の“彭 / zhタo /”とアスペクト助詞の“彭 / zhe /”が意味的にも連続していると捉えることは無理なことではない。

木村 1981 が、結果補語を伴う他動構造(VtR と記す)と「結果補語的動詞接尾辞」の“V 彭d”構造の類似性を論じる根拠のひとつは、「受け手優位」の原理である。すなわち、VtR 構造の意味機能の一つは、動詞が表す動作の遂行の結果として、仕手ではなく、その動作の受け手が至らしめられる具体的状況を述べることである。同様に“V 彭d”構造もいわゆる存現文のように、V が他動

詞であっても文中に必ずしも仕手の表現を必要としないため、仕手に関しては不問であり、受け手の具体的状況を表す。一方「進行」を表す“彭_p”では仕手名詞のない表現は不自然であり、“彭_p”に関しては仕手が、“彭_d”に関しては受け手が主要であるということである。

しかし、木村 1981 の論拠である仕手と受け手の優位性に関する相違は、動作における達成完了状態に着目すれば、至極自然なことである。“彭 / zhe /”は話し手が動作における「達成完了状態」に言及し、一連のコトガラを時間的経過として捉えることによって、「持続」という統語的意味が具現化された用法であることは先に述べた通りである。木村 1981 のいう「結果補語寄りの動詞付加成分」である“彭_d”は、本稿では「達成完了状態」において動作の結果が続く意味の動詞と“彭 / zhe /”が共起し、「状態の持続」という統語的意味を表す用法であるとみなす。また「純粋なアスペクト辞」とされる“彭_p”は、本稿では「達成完了状態」においてもなお動作が続く意味の動詞と共起し、「進行」という統語的意味を表す用法であるとみなす。動作の「達成完了状態」でその結果が続くということを述べる際、話し手の視点はその結果の所在である受け手に向けられ、また動作がその「達成完了状態」においてもなお続くということを述べる際、話し手の視点がその動作等の仕手に向けられるのは極めて自然なことである。

木村 1981 の提示した過渡的成分は、統語的な振る舞いに関しても論及されており、結果補語の“彭 / zhāo /”とアスペクト助詞の“彭 / zhe /”の間を連続的に捉えることの妥当性を示唆するものである。しかし、“彭 / zhe /”について「持続」と「進行」という二つの機能範疇があるとする木村 1981 に対して、“彭 / zhe /”そのものはひとつであるが、その相違は共起する動詞に起因すると考える先行研究も少なくない。本稿においても、“彭”一漢字の原義・実詞的な意味が、結びつく動詞の意味と意味的になじむことが不可欠の要因であると考えられる。試みに“彭”と結びつかない動詞について考察する。

“彭 / zhe /”が、持続するという統語的意味を表すのは、動作の達成完了状態に言及するからであることは先に述べた。一方“彭 / zhe /”が、瞬間的に完成する意の動詞や結果の意を表す動詞をとらないことは既に指摘されている。川 1991 が挙げている瞬間的に完成する意味を表す動詞は“棒”、“僅”、“卿”、“繭”等であり、結果の意を表す動詞は“宥狎”、“唯峭”、“嬉宜”、“宣蝕”、“弘渠”等である。これらの意味特徴をもつ動詞の「達成完了状態」について考え

てみると、瞬間的に完成する意味を表す動詞は、動作の達成後にも持続することはありえないし、結果の意を表す動詞は、“彭 / zhe /”を付加する以前に既に何らかの結果の意を表している。これらの動詞は、達成完了状態に言及して持続の意を表そうとする“彭 / zhe /”とは意味的になじまないため、結びつくことはないのである。

本稿は、結果補語“彭 / zhāo /”とアスペクト助詞“彭 / zhe /”の間の意味的な連続性を示すに当たって、木村 1981 を傍証としつつも、話し手が動作の「達成完了状態」に言及しているという共通点を連続性を示す根拠として主張する。すなわち、表現例(9)、(10)、(14)のような結果補語“彭 / zhāo /”の用法と、「持続」という統語的意味を表す“彭 / zhe /”が、意味的に連続性を有していると捉えることを可能にしているのは、両用法とも、持続する時間として捉えられる「達成完了状態」に言及する用法であるからである。

3. 結び

“彭”の各用法間においては意味的に相違がある。動詞“彭 / zhū /”、“彭 / zhāo /”は原義である実詞的な意味(「つける」、「つく」、「付着する」)を表し、結果補語“彭 / zhāo /”からアスペクト助詞“彭 / zhe /”の用法は、実詞的な意味から具現化された統語的意味(「達成」、「持続」)を表す。述語基(動詞)の表す意味と述語基後置成分の表す統語的意味は原義・実詞的な意味に基けば、意味的に連続するものとして捉えることが可能である。

統語的意味に関しては、話し手が捉える時点の推移によって連続的に捉えることが可能である。すなわち、従来結果補語として一範疇に捉えられてきた用法にも話し手が動作・行為の「達成」の瞬間を捉えた用法から、むしろ「達成完了状態」を意識的に捉えた用法までを見てとることができ、話し手が捉える時点の推移によるこの相違は、共起する動詞或いは形容詞とも関って、結果補語“彭 / zhāo /”の用法の相違として表れているのである。そして、従来アスペクト助詞とされてきた“彭 / zhe /”に関しても、話し手が動作・行為の「達成完了状態」を捉えたものであるという点から、結果補語の意味範疇と連続的に位置づけた。“彭 / zhe /”の表す「持続」という統語的意味は、「達成」の瞬間から「達成完了状態」にかけての一連のコトガラの時間的経過を、話し手が「持続している」と捉えることによるものである。そして、動作の持続(或いは進行)であるのか、その結果の持続であるのかの違いは、“彭 / zhe /”の違いと

いうよりも、むしろ“彭 / zhe / ”と共起する動詞の意味に起因する。すなわち、動作がその「達成完了状態」においてもなお続くものであれば「進行」を表し、「達成」の瞬間後もその結果が続くものであれば「状態の持続」を表しているのである。

以上のように、本稿では“彭”の用法を「動詞～結果補語～アスペクト助詞」として連続的に捉えた。機能語を実詞的用法と同一線上に位置づけて連続的に捉え、“彭 / zhe / ”は純粋な機能語(持続・進行のマーカー)ではないとみることの妥当性を立証した。

引用文献

- 荒川清秀 1981. 「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」, 『愛知大学文学論叢』第 67 輯, 1 - 25 頁。
- 荒川清秀 1985. 「“彭”と動詞の類」, 『中国語』7 月号, 大修館書店, 30 - 33 頁。
- 木村英樹 1981. 「「付着」の“彭 / zhe / ”と「消失」の“阻 / le / ”」, 『中国語』7 月号, 大修館書店, 24 - 27 頁。
- 多和田峰子 2000. 「購器“V + 狛”侘堀嶺“狛”議寫梢」, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科修士論文。
- 川鍵功 1991. 『旗査囂扮崙寫梢』蘇遜寄僥竈井芙。
- 装垵鯖等 1983. 『糞喘 旗査囂囂隈』翌囂縮僥嚙寫梢竈井芙。
- 太輔^リ麼園 1980. 『旗査囂伊為簡』斌曆咫慕鋼, 654 頁, 665 - 667 頁。
- 忌勤唱 1997. 『旗査囂扮悶狼由寫梢』冤臭縮囂竈井芙。